

■今月の特選句

2019年10月



いと派手に声掛けてくる毒茸

竹下和宏

毒茸を擬人化。派手で、けばけばしい色と柄が人間を誘う。それを「派手に声掛けてくる」としたところがよろしいですね。



炎天下昔気質は水飲まず

伊藤浩睦

職人さんは自分に厳しい人が多いからね。医学的な観点など全く無視。今どきの若いもんはガブガブ水なんぞ飲みおって、精神がふやけとる。



踊子と一緒に踊るつけまつ毛

大林和代

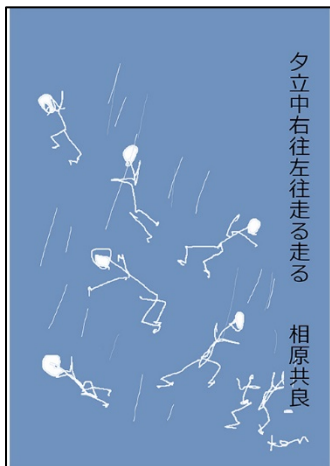
つけまつ毛の存在感を詠んだね。この句では、つけまつ毛と踊り子を対等な扱いとしている。擬人化と誇張の技は大したもんだ。



## 今日も又月の引力月見酒

高田敏男

月の引力ならば致し方ない。酒好きにありがちな責任転嫁の癖が出たね。花見酒なら花に、雪見酒なら雪に責任があることになる。



## 夕立中右往左往走る走る

相原共良

突然の雨に慌てふためくということはよくあること。その慌てぶりが「右往左往」「走る走る」で上手く表現され、動きのある句となった。



## 針のごと顔に降る降る花火降る

久我正明

夜の花火、揚げ花火の直下にいた。そこで感じたことを直感的に表現した。「針のごと」の表現には、花火の線と作者の恐怖が表現されている。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

ニュートンがこつそりゆする林檎の木 ・・・引力だとて裏があるもの	小林英昭
濡れ場ゆえ水を欠かせぬ菊人形 ・・・濡らしすぎても顰蹙（ひんしゆく）を買う	田村米生
思はざる植毛千本敬老日 ・・・来年何本もらふのだらう	飛田正勝
耳鳴りのごと窓下にちちろ鳴く ・・・美声のつもりがご迷惑とは	佐野萬里子
心ならずも上から目線墓洗ふ ・・・ご先祖様を見下しちゃダメ	稲葉純子
覗かれて覗き返してゐる金魚 ・・・金魚もきつとも好きなんだ	白井道義
法師蟬鳴けば宿題気になりて ・・・蟬は好意で知らせてくれたか	田中早苗
帰省子はスマホ星人ばかりなり ・・・親もスマホを手にして迎へ	和田のり子
酷暑かな犬も走らぬドッグラン ・・・犬もまたとは人間もまた	高橋きのこ
そば好きの和尚そば打つそばの里 ・・・門前の僧習はぬそばを打つ	吉原瑞雲
膝癒えてついに決起の秋きたる ・・・決起は血気また傷むかも	下嶋四万歩
ナイターはたまに日本語宇宙間 ・・・右中間をば宇宙間とは	赤瀬川至安
象の鼻色なき風を搔き回す ・・・退屈の象鼻もてあまし	井口夏子

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

近寄れば軽々躲され秋の蝶  
 四鮎岩に挟まれ岩に舞ふ  
 メタボ妻背負ってつぶれる羽抜鶏  
 長寿国親子二代の敬老日  
 古妻の言葉直球うそ寒し  
 まんぼうの転がつてゐる大相撲  
 雷声を収むる番犬の男前  
 夏の足に踏みつけられてゐる真昼  
 焼け跡に自棄(やけ)にはならず敗戦忌  
 膝小僧と喉の仏や盂蘭盆会  
 花すすきおいでおいでと死に神が  
 コスモスの中もコスモス影もなし  
 一見凶悪人畜無害黒眼鏡(サングラス)  
 雲流れ西行家出長明はひきこもり  
 まだ早い枝豆を穫る気長夫  
 瀬祭忌粥三わんの健啖家  
 急かさるる台風帰路の新幹線  
 田舎なり古民家揺らし蚯蚓なく  
 青は未熟青臭い柿青二歳  
 雁は渡り鳥大腸癌は何鳥かな  
 息すれば肺が火傷の猛暑の日  
 節水の街ですプール休業す  
 背泳ぎの一人さびしき雲浮かぶ  
 遠雷やダックスフンドの耳垂れて  
 ミニチュアのみ사일となりオクラかな  
 虫に舐められ雨に舐められ秋茄子  
 夫のさす男日傘や板につく  
 睦まじく嫁と姑秋茄子  
 雷鳴とスマホ同時に鳴りにけり  
 粘っても途切れてもよしとろろ汁  
 かぐや姫月はどこかと星月夜  
 秋風に押され茶色のワンピース  
 竹夫人夫より奪ふ浅き夢  
 厄日なり交通切符切られたる  
 ざはざはにあらざさはさは竹の春  
 麦わら帽浮かべ夏果の海  
 モカの香に包まれ書を読む休暇明  
 山ひだに出番待ちをり翳雲  
 剥製の熊も売り子や夏の山  
 腹白きやもり腹見せ窓を這ふ  
 炎昼やとろり長瀬川下り

相原共良  
 相原共良  
 青木輝子  
 青木輝子  
 青木輝子  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 荒井 類  
 荒井 類  
 荒井 類  
 井口夏子  
 井口夏子  
 池田亮二  
 池田亮二  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 伊藤浩睦  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 上山美穂  
 上山美穂  
 上山美穂  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 太田史彩  
 太田史彩  
 太田史彩

残る暑さサンバの風にはぐさる  
 天へ天へわれいつか向日葵になる  
 二重虹残して雨の上がりけり  
 壊されて一夜で再建蜘蛛の巣城  
 阿波踊り見に来たはずが踊りだし  
 朝っぱらから金魚もう赤い顔  
 秋の蚊に惻隠の情かけるべきや  
 駄句悪句全部残暑のせいにして  
 その昔岡っ引きかと蚯蚓鳴く  
 秋海棠いつもうつむく羞恥心  
 秋茄子や嫁も姑もそっぽ向く  
 江戸切子夏をおしゃれに演出の  
 小粒柿今年はいくつ稔るやら  
 母さんの思ひ出いくつ花火の夜  
 老妻より嫁が親切敬老日  
 敬老日杖をつきつつ花街へ  
 海の日のつけたしのごと山の日は  
 ひまわりや賢明に立たされてをり  
 善玉も悪玉もあり揚花火  
 伸び縮み蛇に蛇腹の好都合  
 洗濯機の蛇腹の側に蛇がゐて  
 銀やんま追ひかけてみるキャッツアイ  
 爽やかや財布ケータイ忘れみて  
 食パンは柴犬の色秋の朝  
 蝉落ちる地球の割れる音がする  
 猿酒と騙りいつばい飲まさる  
 実柘榴に歯科医は匙を投げにけり  
 庭のトマトが一番人気子や孫に  
 初鏡姉に似て来し笑皺  
 庭に立ちをり金柑の花にむせ  
 秋の藪蚊こちらの弱味知っている  
 いつの間にか蝉に代わりて虫時雨  
 色に出て口割れやすき通草かな  
 その噂痛くて痒し猫じゃらし  
 じつとしておれぬ性分水馬  
 晒されて恥じるものなし大西瓜  
 冷蔵庫妻不在日は扱き使ふ  
 天心の月押し上げて鳴る花火  
 生身魂狸寝入りの地獄耳  
 宿題は家族総出や八月尽  
 飛び入りの知らぬ同士や尻相撲  
 うりの輪切り茄子の輪切りてんでに主張  
 後期高齢者通知開封は明日にする  
 もろこしの整列今入道行進したばかり

大林和代  
 大林和代  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小川鮎太  
 小川鮎太  
 小川鮎太  
 奥脇弘久  
 奥脇弘久  
 奥脇弘久  
 門田智子  
 門田智子  
 門田智子  
 金城正則  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 下嶋四万歩  
 下嶋四万歩  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝

かなかなや漢字検定上の空  
 ちぐはぐな会話も通じ敬老日  
 鵜の橋は渡らずボール蹴る  
 捕虫網持つ子さがして夏終る  
 悪者にされし花札鹿の鳴く  
 別嬪の旨いと叫び食ぶ林檎  
 女教師の歌より始まる運動会  
 落鮎のくねりと挿され焼かれゆく  
 語部の手はあたたかき終戦日  
 芸術は腰痛を生み秋初め  
 星月夜ゴッホも覚えし眩暈かな  
 法師蟬輪廻転生信じたる  
 列島が眩暈を起こす熱暑かな  
 油物欲し始める秋の舌  
 すえる相手探し求めてお灸花  
 何処まで飛ぶや鉄砲百合の弾は  
 老庭師美容師のごと松手入  
 大松茸じつとみる女ちよつとさはる女  
 熊蟬にしわしわしわと指摘され  
 新学期日焼子よりも師の黒し  
 眩しすぎ西日背負ひて友来たる  
 ハワユーと声をかけられアホウドリ  
 猪の通り横切り汗しとど  
 椰子の実に匙を拒まれ汁を吸い  
 山椒の実口の悪さは母似なり  
 見てしまふ桃の窪みの色気かな  
 別れ蚊やさらば大目にみてやらう  
 塗り絵みな墨塗りたくる終戦忌  
 百均の孫の手を買ふ敬老日  
 東京はビルの溜り場秋の空  
 立待のあの日が始め恋悲し  
 目の周り赤しくすねて猿(ましら)酒  
 直撃も風雨抑える媛の神  
 名月やアポロも遠くなりけり  
 ビール腹見倣え旬の秋刀魚達  
 虫の音のさまざまに鳴き移りして  
 ひと頃の勢いのなき夏野菜  
 つくつくぼうし三部構成まねてみむ  
 渋団扇激しく手話の諍ひぬ  
 咆哮の草刈マシン自暴自棄  
 籠カート秋刀魚の値札見て過ぎる

高田敏男  
 高田敏男  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 西をさむ  
 西をさむ  
 西をさむ  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 林 桂子  
 林 桂子  
 林 桂子  
 原田 暉  
 原田 暉  
 原田 暉

川風も値段に入れて川床料理  
 食の秋ペットの犬も肥満体  
 今以て器用貧乏夜長の灯  
 完成は無駄省くこと花桔梗  
 新の字に白の意味あり新豆腐  
 遊び尽くし怠け尽くせば八月尽  
 大胆に脚組むスーパーのお大根  
 青虫や蝶の未来を夢見てる  
 梅雨明ける雲は上衣を脱ぎ捨てて  
 初秋刀魚高値の花に手足出ず  
 かぶりつく西瓜に種が邪魔をする  
 気紛れに生れ台風気まま旅  
 コンバイン待つにお辞儀の稲穂かな  
 リメイクのモデルケースの案山子かな  
 二千万無理と承知の蝨斯  
 帯といて棚田染めるや彼岸花  
 鬼灯や子どもの口で泣いている  
 実は風に任せてをりぬ糸瓜棚  
 大ジョッキ連れの亭主は小ジョッキ  
 又の名をミスターGとや油虫  
 ぐうたらのかくれ無き身に秋の風  
 虫封じ掲ぐる寺の虫時雨  
 夕空は目下あきつの制空権  
 改札を打つ磁気カード雁の列  
 掴まれてひねくれてゐる蝸牛  
 片足の案山子作るは差別とや  
 魚屋と呼ぶは禁句や秋刀魚買ふ  
 庭を掃く次の毛虫を待つやうに  
 筆圧に押されて嗤ふホ句の秋  
 ジーンズの穴より漏るる秋思かな  
 人類よおごるなかれや蚯蚓鳴く  
 棟梁のぞうりはいてる三尺寝  
 帰省子のまづ猫に挨拶違ふ声  
 全財産持ち歩きをり敬老日  
 三步程前行く妻や秋落暉  
 わけもなきことを笑ひて夜長かな  
 もののけの揺らして去りぬ新松子  
 笑ひ皺値千金敬老日  
 秋雨や蝕まれたるこの星に

久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 堀川明子  
 堀川明子  
 堀川明子  
 本門明男  
 本門明男  
 本門明男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 三好 城  
 三好 城  
 三好 城  
 棕本望生  
 棕本望生  
 棕本望生  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村山好昭  
 村山好昭  
 村山好昭  
 百千草  
 百千草  
 百千草

運動会大捕り物の綱一本  
 お日様の衣借りりを名月に  
 蜘蛛の囿にかかる己の不用心  
 夜空を監視流星を見たいから  
 何処からが天何処までが天天高し  
 一振りと言ひたい秋刀魚の長さかな  
 岩風呂に「あ〜」と寛ぐ溪紅葉  
 しばらくは不揃ひなれど初紅葉  
 ひぐらしのその日暮らしや旅がらす  
 今日だけの花売りがいる秋彼岸  
 南国に別荘あるか秋燕  
 何かある何か分からぬ曼珠沙華  
 クエスチョンマークに寝入る愁思かな  
 「記憶にはございません」の天瓜粉  
 行く秋の外車乗り換へ車椅子  
 匣鮎定価六百円とあり  
 豪農の黒き館に黒き蠅  
 切腹のやうに切らるる大西瓜  
 タイムリミットまでに素麺茹でて食べ  
 いるはずの蚊が見当たらず午前二時  
 秋刀魚焼く贅沢なりし夕餉かな  
 宿題に影武者奔走夏休み  
 流水のプールくまなき芋洗い  
 幾千のひまわり宿すゴッホの気  
 口固い人と蜜豆つまらない  
 夏休みこどもが仕切ることども会  
 小豆研ぐ「小豆洗ひ」の音がする  
 親子げんかけじめのつかず夏休  
 親の顔子の顔あきて夏休  
 親泣かせ先生極楽夏休  
 敬老の日嫁の笑顔の痛みどめ  
 一人居と一夜を共に鈴虫の音  
 友人が日盛りを来し覆面で  
 食欲の秋楊貴妃の豚料理  
 音で楽しむビルの谷間の夜の花火  
 ふる里の炭坑節の盆踊  
 木で鼻を括る箸持つ国冷ゆる  
 湯豆腐の頃知りつくす独り者  
 産廃の残土のてつぺん草の祭  
 じじばばの顔に皺なし案山子村  
 七十は使ひ走りで敬老会  
 詰め放題鯛の身にもなつとくれ

森岡香代子  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 山内 更  
 山内 更  
 山内 更  
 山下正純  
 山下正純  
 山下正純  
 山本 賜  
 山本 賜  
 山本 賜  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山洋子  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 和田のり子